# おてだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN

NO. 29

2010年 12月

全国各地の寄せ玉遊びが大結集

第16回 全国お手玉遊び大会

ぬくもりを届けたい、手から心へ。

愛媛・新居浜

日本初「寄せ玉遊び」の共演

ペルーと中国の寄せ玉遊びも「VTR参加」

寄せ玉遊びに
福島県～沖縄県まで
12都県から15の個人・
団体58人が参加!

■日本初「寄せ玉遊び」の共演【1～2ページ】
とっとりのお手玉の会に優雅賞が！第1部～第4部まで

■お手玉遊び指導者研修会「神戸にて開催」【3ページ】
グループでワークショップの運営方法を学ぶ

■第2回 近畿ブロック大会を開催【4ページ】
児童から90歳以上の人まで多世代交流の大会に！

●各支部活動の報告【5～8ページ】
地域の中で活動・段位認定審査は子どもの励み・いいだ人形劇フェスタへの参加
寄せ玉披露で「感動賞」・うつ病は「お手玉で」治す！講演告知活動を
平城遷都祭/天平の行列に参加して・お隣同士の県で仲良く
お手玉遊びの奥深さを探ろう・こんな楽しいことをやっています
高松市民文化祭アートフェスタ2010に参加して・お手玉伝承の一助に！
高岡武家屋敷で「伝承遊び塾」を開催・沖縄「加那よ」での活動【11ページ】

●よみがえれ「お手玉」【9～10ページ】
お知らせ、第11回とっとりのお手玉遊びの集い開催

●第16回全国お手玉遊び大会に参加して【12ページ】
昔を思い出しながら楽しく・久し振りに原点にかえった
いきる喜びをいただいた
市内観光もとりいれた大会

●お知らせコーナー【13ページ】
折り方は独自技法で立体折り紙・新聞掲載
雑誌「HAPPY ONE」に

●本部と新居浜支部の活動報告【14ページ】
児童・幼児・乳児にお手玉指導・保育士対象に講習会
留学生がお手玉で日本を学ぶ・東さんの講演会

●裏表紙
新居浜支部の枝廣顧問が社会人落語の2代目名人に
交流会で顧問の図書サイン会・「脳のからくり」で

# 第16回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会

## 日本初「寄せ玉遊び」の共演開催

## とっとりのお手玉の会に［優雅賞］が

第16回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会を、平成22年10月16日(土)に、日本のお手玉の会、日本のお手玉の会新居浜支部、全国お手玉遊び大会実行委員会の主催、新居浜市、新居浜市教育委員会、愛媛新聞社の共催、総務省、文部科学省、厚生労働省ほかの後援により、新居浜市の銅夢にいはまで開催しました。

開会式は、宮中雲子日本のお手玉の会会長から、「新居浜市のご支援と、市民のみなさんのご努力により、大会が開催できますことに、お礼を申しあげます。全国からご参加いただきました皆様に、心からお礼を申しあげます。たのしい思い出を作ってください。」とのあいさつで始まりました。

次に、佐々木龍新居浜市長が、壇上に立ち、まずお手玉をゆって見せ、次のように歓迎の言葉を述べました。

「新居浜市民の「心」であるお手玉の全国大会にご参加いただき、感謝しています。あすは、新居浜市の「誇」である太鼓祭りの観覧と、「礎」である近代化産業遺産の探訪にも、ご参加いただくと伺っています。お手玉の大会、市内観光をどうぞお楽しみください。」

つづいて、加戸守行愛媛県知事の祝辞を、佐伯隆志県東予地方局長が代読しました。

加戸知事は祝辞で「大会発祥の地の新居浜で、4年ぶりに大会が開催されますことは喜ばしく、お手玉遊びを通じた、心豊かな社会づくりに取り組まれているご努力に、深く敬意を表します」と述べていました。

この大会は、日本初「寄せ玉遊び」の共演として行いました。お手玉遊びには、「投げ玉遊び」と「寄せ玉遊び」の二種類ありますが、これまでの15回の全国お手玉遊び大会は、すべて投げ玉遊びの技を競うものでした。

今大会は、寄せ玉遊びに注目し、全国に継承され現存する寄せ玉遊びを、「お手玉の里・新居浜」に持ち寄り、地域独特の遊び方を披露しあう大会としました。

全国から持ちよった寄せ玉遊びを、お互いに紹介しあい、学びあい、それぞれの寄せ玉遊びの仕草をビデオに、歌詞は印刷物に記録し、伝承文化として次世代に残すことにしました。

今回の大会は、①寄せ玉遊びの共演、②投げ玉遊びの個人戦、③講演会、そして、④交流会の4つの行事で構成しました。これらの行事に、全国の20都道県から700人の参加がありました。

オープニングセレモニーでの大西社中の太鼓の演奏

### 第1部「寄せ玉遊び」の共演

「寄せ玉遊び」には、福島県から沖縄県までの12都県から15の個人・団体、58人が参加しました。会場では、寄せ玉遊びの仕草が観衆によく見えるように、正面のスクリーンと、2台の大型モニターに映し出しました。出演者の見事な手さばきに、会場からは歓嘆の声が聞かれました。

また、ピンマイクをとおして流れる、出演者の演じながらの素朴な寄せ玉歌に、会場を埋めた出席者は聞き入っていました。

やぶお手玉の会(兵庫県養父市)のみなさんや、とっとりのお手玉の会(倉吉市)のみなさんによる石ころで遊ぶ「石なんご」や、沖縄いしなぐの会(うるま市)のチョウセンサザエの蓋を使った「マンナー」など、珍しい寄せ玉の披露に、会場からは、惜しみない賞賛の拍手が贈られていました。

寄せ玉遊びの共演は、5人の審査員によって審査が行われ、「優雅賞」「感動賞」「古典賞」と、「審査員特別賞」2件、そして「ぬくもり賞」10件が贈られました。

また、あらかじめビデオに収録しておいたペルーの寄せ玉遊び「ヤセス」と、中国の寄せ玉遊び「ガリハ」が会場に流れ、珍しい遊びに出席者は身を乗り出し、見入っていました。

事前に各地に伝わる寄せ玉遊びの歌詞などを集めて、「寄せ玉遊び」のパンフレットを作成し、会場で参加者に配布しました。

【ヤセス】ペルー・宮崎／エミさん

【ガリハ】中国・楊　莉莉さん

### 【寄せ玉遊びの共演・入賞者】

**［優雅賞］**「因幡の寄せ玉ほか」
とっとりのお手玉の会(鳥取県倉吉市)

**［感動賞］**「おさらり」信州おしなごの会
篠田啓子(長野県飯田市)

**［古典賞］**「マンナー」沖縄いしなぐの会
金城千里(沖縄県うるま市)

**［審査員特別賞］**
「ちゃっくり」斎藤朋子(福島県福島市)
「石なんご」やぶお手玉の会(兵庫県養父市)

**［ぬくもり賞］**その他の個人・団体に贈られた。

### ●「寄せ玉遊び」の出演者●

1.「ちゃっくり」 福島県福島市　斎藤　朋子
2.「おさらい」 和歌山のお手玉の会　森　勝代ほか
3.「おさらり」 信州おしなご会　篠田　啓子
4.「石なんご」 やぶお手玉の会　小野山睦子ほか
5.「おさらい」 東京お手玉の会　中山　順子ほか
6.「おさら」 尼崎お手玉の会　池辺美保子ほか
7.「おさら」 松江市　高木 文子ほか
8.「おさらい」 広島県広島市　藤井 法子ほか
9.「マンナー」 沖縄いしなぐの会　金城　千里
10.「おさらい」 福岡お手玉の会　勝俣喜代子ほか
11.「おじゃみ」 高松おじゃみの会　磯崎 洋子ほか
12.「おじゃみ」 西予市お手玉の会　松本千鶴江ほか
13.「因幡と伯耆の寄せ玉」「ずずこの歌」
とっとりのお手玉の会　福田　環ほか
14.「ずずこの歌」鳥取県倉吉市　深田美喜代ほか
15.「おじゃみ」 新居浜支部　今村シメ子ほか
16.［ＶＴＲ①］ペルーの寄せ玉遊び
『ヤセス』 愛媛県西条市　宮崎　ノエミ
17.［ＶＴＲ②］中国の寄せ玉遊び
『ガリハ』 西条市在住　楊　莉　莉

### 第2部「投げ玉遊び」個人戦

【一般の部】
両手4個ゆり、両手3個ゆり、両手投げ3個ゆり、片手2個ゆり

【小学生の部】
両手3個ゆり(両手投げ3個ゆりを含む)、片手2個ゆり

投げ玉遊びの個人戦には、20都道県から300人が参加しました。大会の成績は、左記のとおりです。

### 【投げ玉遊び個人戦・入賞者】

**［一般の部］**■両手4個ゆり/優勝・槙信子(広島県尾道市)/準優勝・平田邦子(同)/敢闘賞・松葉芳(岐阜県本巣市)
■両手3個ゆり/優勝・小川時子(広島県尾道市)/準優勝・山根三重(同)/敢闘賞・加地作子(愛媛県新居浜市)
■両手投げ3個ゆり(ジャグリング)/優勝・小野山睦子(兵庫県養父市)/準優勝・小野山道子(同)/敢闘賞・山根三重(広島県尾道市)
■片手2個ゆり/優勝・松葉芳(岐阜県本巣市)/準優勝・高橋喜美子(広島県尾道市)/敢闘賞・平田邦子(同)

**［小学生の部］**■両手3個ゆり/優勝・小林愛生(香川県高松市)■片手2個ゆり/優勝・弘内奏楽(同)

### 第3部「お手玉遊び」講演会

中原先生自ら考案されたお手玉ヨーヨーを操りながらの楽しい講演。

### 講演会は、うつ病は「お手玉」で治す

うつ病は「お手玉」で治すとのタイトルで、講師にヘルスアートクリニックくまもと院長の中原和彦医学博士(日本のお手玉の会顧問)にお願いしました。

中原博士は、「毎日笑顔で過ごすことが大切です。しかし『うつ病』の人は、何か気になることがあって、そのことで悩んでいて笑うことができなくなっています。　お手玉遊びに集中することで、その間は、気になっていることを忘れることができます。

また、失敗をして笑うこともできるようになります。」と、お手玉遊びに集中することの効果、お手玉遊びを生活に取り入れることの大切さを、説かれました。講演には、市民を含む350人が参加しました。

### 太鼓祭り中の大会を支えた ボランティアに感謝

大会実行委員長
伊藤雅治

■四国ブロック長・新居浜支部長

■競技進行のボーイスカウトのみなさん

### 感謝の言葉

講演会の終了後、表彰式と閉会式が行われました。各種目の受賞者は、別掲のとおりです。

閉会に当たり、伊藤雅治大会実行委員長は「太鼓祭りの真っただ中での開催で、運営スタッフの確保を心配しましたが、ご参加いただいた皆様のご協力と、市内のボランティアグループのみなさんのご支援で、大会を運営することができました。感謝しています。」とのあいさつで、大会を閉じました。

### 第4部 交流会は「落語で開幕」

### 芸名「芸乃虎や志」

お手玉の会新居浜支部・顧問
豊岡台病院・院長
枝廣篤昌

大会終了後、新居浜市内の宴会場・ユアーズに場所を移し、93人が参加して交流会を開催しました。交流会は、精神科医で社会人落語の枝廣篤昌先生(日本のお手玉の会新居浜支部顧問)の「お手玉落語」で幕を明けました。

枝廣先生の落語は、おばあちゃんと孫との関係が、お手玉を通じて深まるという題材を、楽しく、ユーモラスに語られ、参加者は大爆笑。会場は笑いの渦に包まれました。

懇親の宴は、藤田石根直前会長の乾杯の音頭でスタートしました。

その後は、参加者がそれぞれに、地元の民謡や踊りなどの出し物を披露しあい、にぎやかに楽しい交流のひと時を過ごしました。

最後に、山本光博大会副実行委員長のリードにより、参加者全員で「故郷」を大合唱し、再会を誓いあいました。

●新居浜生涯学習大学学長／山本光博

# グループでワークショップの運営方法を学ぶ

# お手玉遊び指導者研修会を終え

日本のお手玉の会副会長
北　村　義　雄

## みんな、いきいきとした笑顔がなによりうれしい。

平成21年度から始めましたお手玉遊びの指導経験のある方を対象にした２回目の研修会を、８月28日と29日の２日間、神戸市内で31名の受講者を対象に行いました。

この研修会の目的は、各支部やブロックで「お手玉遊び講習会」の講師が出来るよう研修することです。

そこで、お手玉遊びの歴史や遊び方の基本的なことの講義を、福岡の杉村師範代や、松本師範代が担当しました。高齢者のお手玉遊びの活用事例などを、今村師範代にお願いしました。

指導者講習会の運営方法などについては、北村副会長が、地方大会の運営法などについては、春田副会長がそれぞれ担当しました。

また、宮中会長には、講話の時間に、詩にまつわる貴重なお話と、歌までお聞きし感激しました。

今回の受講生への課題は、ワークショップの運営方法を学ぶことにしました。４つのグループが、それぞれ他のチームを遊ばせる方法を検討、実習することでした。

短時間でしたが、それぞれのグループディスカッションを深め、何とか工夫して、みんなが一体となって遊ばせていました。

遊ばせることの難しさも体験された方もおられたことでしょうから、今後に生かせるものと期待しております。

研修会の受講資格は、受講者レベルのある程度の維持のため、約50ある支部の中で、３年以上の支部登録と、指導経験が３年以上としていました。

これで、ほぼ対象者の多くは研修されたのではと思われます。今後は、既受講者も対象とした、受講者のノウハウを提供し合う交流を中心とした研修も、検討していきたいと存じます。

次回以降の開催については、改めて各支部長にご意見をお伺いすることとしますので、その節はよろしくお願いします。

● 籠に点数が記入されている

● 一個からの基本動作練習

**お手玉遊び指導者養成講習会用テキストの内容**

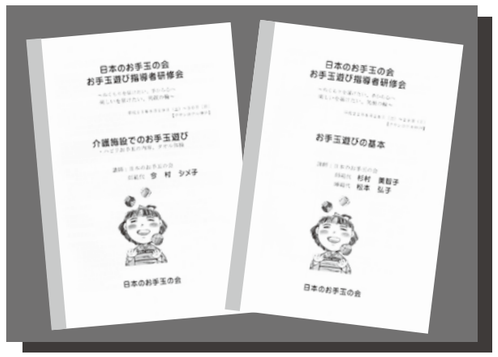
**1. お手玉とは**
- 世界とのかかわり
- お手玉の効能・伝承文化の必要性
- お手玉指導の基本
- 指導の基本　その１
- 指導の基本　その２
- お手玉遊びの種類と内容
- 競技性のある遊び方
- 異世代で遊ぶお手玉遊び
- お手玉作り
- 作ってみよう
- 図解で見るお手玉の技
- コミュニケーション遊び方

**2. お手玉遊び競技・審判規則**
**3. お手玉遊び指導要領**
**4. お手玉段位認定**

**お手玉遊び指導の心得（指導要領）**

◆指導要綱利用の手引
1. はじめに
2. お手玉遊びの進め方の概要
3. 主催者との協調と活動の支援
4. 出演依頼の受け方
5. 事前準備
6. 事前準備と練習の要点
7. 大会当日
8. 会場設営の確認
9. 演技の開始と終わりのまとめ
10. 指導要領の活用
11. 投げ玉（振り技）実践指導
12. あなたはいくつできますか

◆これだけは伝えよう
- ※　はじめに
- ※　お手玉遊びの進め方の概要
- ※　主催者との協調と活動の支援
- ※　出演依頼の受け方



●日本のお手玉の会「お手玉遊び指導者研修会」資料

◇介護施設でのお手玉遊び編
講師：日本のお手玉の会
師範代　今村シメ子

◇お手玉遊びの基本編
講師：日本のお手玉の会
師範代　杉村美智子
松本　弘子



# お手玉遊び近畿ブロック大会

## 児童から９０歳以上の人まで！多世代交流の大会に

「お手玉遊び」近畿ブロック大会
大会実行委員会　北　村　義　雄

● 個人戦 / 小学生の部

● 団体戦 / 一般の部

● 個人戦 / 一般の部

●近畿ブロック大会のお知らせパンフレット

２年ぶりの近畿ブロック大会を、11月21日に、神戸市竜が台小学校体育館で行いました。

大会には、ブロックの各支部、鳥取県、愛媛県、岐阜県および地元神戸市内のお手玉愛好家約180名の方々が参加しました。

今回の大会は個人戦、団体戦そしてお手玉演舞といった従来の大会型式に加えて、お手玉作りや寄せ玉遊び、そして、折り紙教室を各支部の方の協力を得て行い、お手玉に初めて触れる方にも楽しめる大会としました。

個人戦は、一般の部５種目と小学生の部３種目を行いました。各部門で優勝した方の中には、兵庫県知事賞や神戸市長賞を授与された方もおられました。

団体戦は1チーム３名とし、チームが組みやすいように配慮し、一般の部は32チームが、小学生の部は５チームが対戦の火花を散らしました。

一般の部では、90歳以上のチームが２チーム出場し、児童から高齢者までの、まさに多世代が交流する大会となりました。

前回の大会と同様に、審判員の派遣や各賞品代については各支部にお願いし、個人戦や団体戦の参加者には、参加費を負担いただくなど、大会を開設した支部の負担を軽減するように、協力いただきました。

本部からは、春田副会長や今村師範代にお越しいただき、緊張の中にも和気あいあいとした大会となりました。

最後になりましたが、日本のお手玉の会の本部をはじめ、参加者やボランティアの皆様にお礼申し上げます。

## お手玉遊び近畿ブロック大会　競技結果表

**【投げ玉遊び個人戦・入賞者】**

**［一般の部］**■両手４個ゆり★優勝・藤井貞子（豊岡港地区）★準優勝・松葉芳(岐阜県本巣市)★敢闘賞・宮崎広子(神戸お手玉の会) ■両手投げ３個ゆり★優勝・小田彰子(たじまＪＡ女性会)★準優勝・武本京子(新居浜市)★敢闘賞・田村清野(やぶお手玉の会) ■両手３個ゆり★優勝・小野山道子(やぶお手玉の会)★準優勝・伊藤かおる(同)★敢闘賞・長畑博美(豊岡港地区) ■片手２個ゆり★優勝・小野山睦子(やぶお手玉の会)★準優勝・秋月久幸(新居浜市)★敢闘賞・朝日アキ子(やぶお手玉の会) ■両手２個ゆり★優勝・近田敏子(新居浜市)★準優勝・中村千代(豊岡港地区)★敢闘賞・戸田弘子(同)

**［小学生の部］**■両手３個ゆり★優勝・福元あき(竜が台小学校)★準優勝・大西ゆうじ(同) ■片手２個ゆり★優勝・水谷友き(竜が台小学校)★準優勝・わたせあやの(同)★敢闘賞・佐藤芳樹(尼崎のお手玉の会) ■両手２個ゆり★優勝・谷下あい(竜が台小学校)★準優勝・本田潤也(尼崎のお手玉の会)★敢闘賞・雨堤まりえ(竜が台小学校)

**【投げ玉遊び団体戦・入賞者】**

**［一般の部］**★優勝・やぶＢ(やぶお手玉の会)★準優勝・和賀っ子(たじまＪＡ女性会)★敢闘賞・やぶＡ(やぶお手玉の会)

**［小学生の部］**★優勝・ラブリーカラフルスター(竜が台小学校)★準優勝・ボーイスカウト尼崎21団(尼崎のお手玉の会)

**【特　別　賞】**

**［一般の部・お手玉演舞］**
奈良お手玉の会たまゆら(奈良市)・但馬お手玉の会・和歌山のお手玉の会(和歌山市)

**［一般の部・兵庫県知事賞］**
両手３個ゆり・小野山道子(やぶお手玉の会)

**［一般の部・神戸市長賞］**
片手２個ゆり・小野山睦子(やぶお手玉の会)

**［小学生の部・神戸市教育委員会賞］**
片手２個ゆり・水谷友き(竜が台小学校)

# 「地域の中で活動」

## 北海道

岩内お手玉の会

会長　高橋照子

平成17年1月に支部認定され15名で発足した「岩内お手玉の会」も、会員が現在10名となり大きな活動は出来ませんが、地域で開催される昔あそびやイベントなどでお手玉遊びを広げています。

また、参加する時お手玉を50個から60個作って持って行き、寄付などをしています。昨年は200個、今年は100個ほど作って皆さんに喜んでいただいています。

今年も11月20日(土)に、ある幼稚園で午前10時から開催された「地域公開」のお手玉の部を担当しました。小さい子供連れの若いお母さんたちが参加され、お手玉遊びを楽しんでいました。

会員も5人参加。年配の会員が「両手3個ゆり」をとても上手にされ、子供たちもびっくりして見つめていました。

また、倶知安のホテルに店を持っているのでそこにお手玉を置き、遊び方の説明書も置いて売っています。少しの収入ですが活動資金となっております。

●幼稚園での昔遊びの公開

●岩内お手玉の会員メンバー

# 段位認定審査は子どもの励み

## 東京都

八王子お手玉の会

会長　鈴木幸子

**悔しさをばねに、努力がみのる。**

**坂本君**

**段位認定審査で見事、四段を取得**

平成22年11月22日の段位認定審査に、会員はもちろん、群馬県から個人会員の藤田さんも加わり、中学1年生の坂本佳樹君がいます。彼は文化庁委託公益財団法人・国民伝統文化活性化協会の事業である、当会の「伝統文化子ども教室、作って遊ぶお手玉教室」に、今年2年目の参加の生徒です。

この教室は2児童館で40名の小・中学生の参加、月1回行われ3年目を迎えました。坂本君は、友達3人と小学6年生の時からこの教室に通っています。三人三様、技にも個性があり、ジャグリングが得意で、両手4個ゆりや逆手3個ゆりと、それぞれよきライバルになって技を磨いてきました。

そして22年3月に行われた段位認定審査で友達の一人が四段に合格をし、彼はわずか1秒の差で不合格となり、悔しい思いをしました。

支部での認定審査が出来るようになって当会での3回目の審査で、坂本君は見事両手4個ゆり四段に悠々と合格、会員の賞賛の拍手をうけました。

合格の夜、彼のお母さんからお礼の電話を頂きました。認定審査の前夜はとても楽しみにしていたとの事で、前回の悔しさをバネに、綺麗で正しい両手4個ゆりをする姿は、さらに成長した彼そのものでした。

八王子お手玉の会は保育園やイベント会場では、出来るだけ小中学生たちの技や演舞を見ていただくようにしています。

その技や演舞は同年代の共感を呼び、見ている子ども達にも自分にも出来るかもしれないという可能性や、チャレンジ精神を引き出してくれるキッカケ作りにもなってくれています。

当会が結成された平成16年、神戸での全国お手玉遊び大会で、多くの大人に混じって生き活きと競技する子どもたちの姿に感動し、八王子にもそんな姿をと、慎ましやかな地域での競技大会も、回を重ねるごとに、参加者の技量も増し、判定に審判員を悩ませるはめになりました。

平成23年1月29日「伝承文化子ども教室成果発表会&第4回八王子お手玉び競技大会」を開催する運びとなり、その準備に取り組んでいます。

これもひとえに、本部のご指導、各支部の皆さまのお力添えと、心から感謝しています。

こどもたちの真剣で、
一生懸命な姿に、
心が動きます。
一つ自信が付くと
もう一歩が、動きます。
これがお手玉の
魅力です。
急がなくても、ゆっくりと
楽しんで・・・・・

# いいだ人形劇フェスタへの参加

## 長野県

信州おしなごの会

事務局　河井正則

長野県飯田市で毎年8月に開催する「いいだ人形劇フェスタ」は、本年で32年目を迎え、今や世界的にも有名になり、日本国内はもとより世界の各地から四百を超える公演参加があり、飯田市は人形劇の街と呼ばれています。

信州おしなごの会は、お手玉の普及を目指して、このフェスタに参画し、お手玉遊びと演舞の披露を中心に、中央舞台に出演してきました。

今年は見学者参加型にして、従来とは志向を変えました。世界のお手玉等の展示をするほか、お手玉作り、拾い技・振り技等の遊び、演舞を参加者に十分楽しんでいただき、成果は大きく上がりました。

全国の各支部にお知らせしましたので、各支部の皆様の参加・協力もありました。ご支援にたいしまして、心から感謝いたします。参加者の感想は、新しいことを学べた、難しいけど面白い、大変満足、笑顔に元気（健康）をもらった等々であり、主催者としても満足でした。

信州おしなごの会は、来年8月5日(金)の人形劇フェスタにも、本年と同様に参加します。また、来年11月19日(土)に、信州りんごと干柿のお手玉作りをします。

ぜひ、皆様のお越しをお待ちしてます。

# 寄せ玉披露で「感動賞」受賞ありがとう。

信州おしなごの会

会長　篠田啓子

日本のお手玉の会主催の日本初「寄せ玉（おさらり）遊び」の共演で「感動賞」をいただきました。日本初ということで、喜んで参加しました。私は、このたびのお手玉遊び大会は「寄せ玉」披露がメインとお聞きし、ぜひ、ご披露がしたく駆けつけました。

●日本のお手玉の会宮中雲子会長さんより全国初「寄せ玉」共演にて感動賞を受けました。

出演に向け、信州でのお手玉の歴史や名産などを調べての参加となりました。

平安時代の資料に「寄せ玉」遊びは、東宮の長寿の前祝いのめでたい遊びとあります。この、めでたい遊びに「とりこ」となり30年余り、若さで夢中になり、お手玉の魅力に取りつかれ、喜寿を迎えることができました。この遊びから長野県の名産を「おしなご」に縫って、世界の人達へ体験していただければ、日本人の雅な芸術的伝承遊びに、繋がればと思いつきました。

そこで、俵型から「信州りんご」をヒントに縦11センチ、横20センチで仕上げ、この同じ寸法で「干柿型」にも仕上げることができます。また日本古来の着物文化「柄や生地」の美しさも取り入れています。一通り縫ってはアイロンをかけ、「被」もアイロン・「ぐしじつけ」へきせ山より、5ミリ入ったところを表に1ミリ裏に4ミリくらいの針目を出して縫う。（参考・和服裁縫全書【婦人生活編】婦人生活社発行・岩松マス85ページ）

信州りんごには「へた」を本どりで結び、五つ作ります。絹の絞り・綿のローン・中身の小豆・じゅず玉の感触等、おしなごの魂に、背筋も正しく姿勢もよくなり、こころも自然と豊かになります。

また、「おしなご」を入れる袋は、男物大島紬で家紋を刺繍しました。

恐縮ですが、お手玉の思いを、少しご紹介します。

①親玉ざぶとん型（四合せ【しあわせ】）絞り・紅・白・中身は「小豆・鈴一つ」幸せ型で、大会会場の皆様のご幸福を願っていました。

②子玉、「かます型」は帯上げ絞り、若草色とケンポナシ。

③俵型は、絞り橙色(だいだい)にこだわり、代々のご発展を祈りつつそんな意味も込めて作りました。

④俵型の信州りんごは、ガーゼのマスクの二重を使い牡丹の花で染め、五色の刺子にし孫二年生の助言もあって、ピンクのビーズ(12個)光るビーズ（1個）を縫いつけ「エゴ」入りとしました。

⑤干柿型は地場産を遊びに取り入れて、綿ローンスカーフの古い着物文化「ぐしじつけ」を参考に仕立て芸術的にし、「じゅず玉」ビーズの赤二つ白一つを縫いつけました。

私の衣装の帽子は、緋のコートから型はざぶとん型を応用。上着は袖なしチョッキ、振り袖の片袖でこの生地は、広島大学院（教育学部）柴静子教授から、お礼にと届けられたものです。

平成21年度の卒業論文に、「篠田啓子」の活動状況を紹介、（おしなご資料から）指導し作成されている。教授は「お手玉の歴史と教育的意義がテーマとなっている。47ページの内3ページが載例として、非常食、全文載用。

このたびは、会場のみなさま方と、柴教授や主人に、見守られている思いでございました。

お手玉の本部のおかげさまで、信州おしなごの会の支部は、心強く活動させていただいております。ご安心くださいそして感謝くでございます。寄せ玉の「おさらり」は長寿の前祝いのめでたい遊びです。

ぜひ、お正月に、ご家族でご一緒に試みてはいかがでしょうか。

●俵型のお手玉の作り方を詳しく説明しました。
1冊8頁　200円です。

●「寄せ玉」の感動賞受賞記念として、思い出に

平安時代中期の女流歌人【小大君】（こおおいのきみ三十六歌仙の一人）の歌にこんな歌があります。

東宮の石などりの石召しければ
三十一を包みて
一っ一文字を書きて参らせる

苔むさば
拾ひも替へむさゞれ石の
数を皆取る齢幾世ぞ

KEIKOおしなごホームページ（篠田啓子のホームページ）
http://www.homepage.mac.com/oshinago1

# ●●●●●●●●●●●●●● 「うつ病は『お手玉』で治す」

**日刊「ゲンダイ」に中原顧問が発表**

ヘルスアークリニックくまもと院長で医学博士の中原和彦さん（日本のお手玉の会顧問）の「うつ病は『お手玉』で治す」の記事が、日刊「ゲンダイ」の平成22年4月14日付に掲載されました。

その中で、中原顧問は、次のようにいっています。

「うつ病はストレスや疲労によって脳内の神経伝達物（セロトニンやノルアドネラリンなど）のバランスが崩れて引き起こされる病気です。治療には、脳の状態を整えることが必要です。それにはお手玉が一番。うつ病の患者さんは過去や将来にばかりとらわれて、『今』がない。お手玉をすると『今』に集中でき、しかも左右の手を使うので、脳のバランスがよくなるのです」。

また、「お手玉によるうつ病治療の効果は、鹿児島大学医学部心療内科との共同研究でも証明ずみ」ともいっています。

「両手で2つのお手玉を30秒間操っている時の前頭葉の血流は、始める前に比べ増えていて、脳が活性化されていることが明らかになりました」。

## 平城遷都祭 天平の行列に参加して！

奈良県　奈良お手玉の会
【たまゆら】会　長　田村節子

大極殿

5月3日、それは真夏のような暑い日でした。私たち、奈良お手玉の会「たまゆら」は芸人として、お手玉をゆりながらの参加でした。衣装も当時の芸人らしく、現在風にいえば作業着に帽子といった出で立ちでありました。沿道は人々で溢れ、はじめは少し気恥ずかしく思いましたが、だんだん慣れていき、それはプロ（？）なみで、皆んな楽しく、にこやかに歩いていたように思いました。

沿道から「上手、上手」の声にメンバーも「上手、上手」と言いながら結構、気分も乗っていたように思います。

私たちは見せる側であって、見る側でないので人々には、どのように映っていたかは、知るよしもありませんが、最終地点のメイン会場、大極殿では「奈良町を拠点に活動されている、奈良お手玉の会「たまゆら」の皆さんです。歩きながら、お手玉をなさるとは、さすがプロですね」と紹介して下さり、見学者の皆さんから沢山の拍手をいただきました。

そして、貴族、商人、農民等々の豪華絢爛な衣装を身に付けた1300人の方々を目の前にし、遙か悠久の人々の面影を偲び、当時にタイムスリップしたような感じがしました。このような祭りに、奈良お手玉の会「たまゆら」も出演させていただけたことに感謝し、また、誇りに思います。

私たちメンバーの誰一人の脱落者もなく、澄みきった青空と新緑、そして心地よい風に、暑さも忘れ、成し遂げたことへの満足な顔がありました。

## お隣同士の県で仲良く

**和歌山支部と奈良支部のお手玉交流会を開催**

奈良お手玉の会【たまゆら】
和歌山のお手玉の会

平成22年5月30日、和歌山支部と奈良支部のお手玉交流会を「ならまちセンター」で開催しました。はじめは不安でしたが、始まると同時に、その不安はすぐに消え去りました。

自己紹介からはじまり、両支部の出し物に意見交換、そして楽しい演舞に美味しい昼食。午後からの審判の練習にミニ大会と可愛い表彰状。両部員とも以前からの知り合いのように、なごやかに、ステキに輝いていました。そしてそこには奈良のお手玉パネルや各種のお手玉を並べ、机の上にはお花を飾りました。

また、本部からお預かりしている団体戦の優勝旗が、その場の雰囲気を一層盛り上げていたように感じました。

参加者は、お互いに学びあい、教わり、小さな会も、より親しみがあり、お互いの思いつきも良く解り、良い勉強になったように感じました。

全国大会からみると、ままごと遊びのような交流会でしたが、中身のある有意義な楽しい一時でもありました。全国各支部のみなさんもぜひ、一度、試みてはいかがでしょうか。

●和歌山支部と奈良支部のお手玉交流会記念品の交換会

## お手玉遊びの奥の深さをさぐろう

和歌山県　和歌山のお手玉の会　会　長　森　勝代

今年度の主な目標として、次の五項目をあげて活動しました。①奈良のお手玉の会さんの活動日に参加させていただき、みなさんが取り組んでいる内容を教えてもらって、学んだことを生かしていく。②季節ごとに童謡でお手玉演舞を考えて、振付を記録していく。③和歌山の寄せ玉遊びを堀りおこす。④近畿ブロック大会に多数参加し近畿のメンバーの方々の熱意と力量を学ぶ。⑤和歌山県下でお手玉遊びの輪をひろげる。などでした。伝統と力量のある奈良の方々には、大変お世話になり、有意義な交流をさせていただきました。心からお礼申しあげます。ありがとうございました。

第16回全国お手玉遊び大会には、4名参加し、愛媛新聞に記事として載せていただきました。

近畿ブロック大会では、8名参加し、今年、春から練習してきた「みかんの花咲く丘」の演舞で特別賞をいただきました。初めて賞をいただき、みんな「よかったなあ」と感激し大喜びで帰ってきました。

毎月第1土曜日、午後2時から県立図書館でのお手玉教室には1歳から80歳の年代の方々が25名～30名参加してくださり、3世代4世代の交流ができました。小6の男子が和歌山で初めて二段の段位認定証を本部からいただきました。会員の方々も段位を取られる方が増えて、日本のお手玉の会会員が増えました。これらの成果を生かして、目標に向かって地道に仲間づくりをし、お手玉遊びの楽しさを実感し、伝承文化を伝えていきたいと思っています。

今後とも本部の皆様、全国の皆様ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

●お手玉遊びの目標設定について話し合う

●毎月第1土曜日の午後2時から県立図書館でお手玉教室を開催中です。



## 高松市市民文化祭アートフェスタたかまつ2010に参加して

香川県　高松おじゃみの会
会　長　磯崎洋子

平成22年6月6日、**「高松市市民文化際アートフェスタたかまつ2010」**に参加し**伝承文化のお手玉で遊ぼう！**をサンポート高松にて開催。

アーツフェスタに参加して10回目。よちよち歩きで、はじめの数回は本部の皆様に全面的に、進行をおまかせ、という状態でした。徐々に自力での開催を余儀なくされ、心もとない年もありました。

回を重ねて本年は沢山の方々に参加いただき、無事終了することができました。

尾道フレンド・徳島・勝浦お手玉・大野原お手玉・四国中央市から栗整形外科の皆様、そして、毎年駆けつけていただく今村師範代。みなさまのお力をお借りして、盛大に開催できました。

地元、高松フルス愛好会・香川大生などの友情出演の応援など、多くの方と交流を深めることができ、改めてお手玉の魅力を再確認しました。

ほんとうにありがとうございました。さらに次回を目指して努力してまいります。

●子どもたちがとても上手

●本部・今村師範代の審判

## こんな楽しいことやっています！

兵庫県　尼崎お手玉の会
会　長　池邊美保子

### 集中力をたかめること 仲間意識を養うことを大切に

デリバリーでお手玉遊びを楽しくいっぱいできるようになったで～　顔を見るなり笑顔で迎えてくれます。毎月出向く小学校の「子どもクラブ」の子どもたちと、授業が終わってからの一時間ほどをお手玉遊びの交流で、楽しんでいます。

おもに1年生から4年生が20～30人参加、初めての子どもが、ほとんどでしたが両手2個ゆりは右手・左手はすぐにできるようになり、現在ジャグリングと片手2個にチャレンジ中です。一時間の中でさまざまな異年齢の子どもたちを相手に、ちょっとした工夫で、参加した子どもたちが、目を輝かせて楽しんでくれます。

「**おせんべいやけたかな？**」から始まり、一人基本技、ペアで、水分補給タイム、私たちの技見本、みんなでお手玉演舞、最後は記録に挑戦、たまにチーム対抗戦といったメニューですが、楽しむこと、集中力をたかめること、仲間意識を持つことなど、笑顔いっぱい、元気いっぱいに「**ありがとうございました。またきてね～**」と帰っていく子どもたちってすばらしいです。

私たちの活動は、定期的に毎月1小学校1カ月おき1小学校とデイサービスセンターへ、また、季節ごとに1幼稚園（親子）と1保育園、1お手玉遊び大会、ボランティアセンターからの依頼先年間10回くらいを回り、皆さんから色々なパワーをもらって感謝の気持ちで楽しんでいます。

## お手玉伝承の一助に！

岐阜県　各務原お手玉の会
会　長　安達保子

秋になるといろいろな学校からフェスティバルで「お手玉遊び」をして欲しいと依頼を受けますので、会員が分かれて指導に伺うように準備します。

市内の稲羽西小学校さんからは今年で6年目の連続依頼を受けています。1年生の3クラスを30分ずつ、お手玉・折り紙・おはじき、などの昔あそびに別れて受け持ちます。

今年は、夏の指導者研修会で学んだ事を活かし、何を伝えたいかを絞るなどメニューを変えました。**「365歩のマーチ」**でしていた基本動作を、**「桃太郎」**の歌に替え1～6番までを流しました。

若い親の中には、この歌を知らない人もいました。伝承とはこんなことも大切なのだとつくづく思います。

初めてお手玉に触れる子どもたちに、2個ゆりが出来る喜びを与えると、どんどんお手玉に入り込んできます。

これからも、工夫をした活動を続けていきたいと思います。

### 各務原私立稲羽西小からお手玉指導のお礼の手紙

子どもたちの笑顔に感動、そして便りに涙で感動です。
一部の子どもたちの便りをご紹介いたします。

お手だまのせんせいへ。
　はじめてやってみて、うれしかったです。
ぼくは、おばあちゃんにお手だまをつくってもらって
もっとお手だまが、うまくなりたいです。
たのしかったです。　【おくむら　こうたろ】より

お手だまのせんせいへ。
　お手だまをやってたのしかったです。また、いっしょにあそべたらいいですね。お手だまっておもしろいですね。　きょうはありがとうございました。
【あき山　えみか】より

● 七人の子どもたちからお礼状

# よみがえれ「お手玉」

## お手玉1個での遊びが「お手玉遊び」の原点

鳥取県
とっとりお手玉の会
会長　福田　環

### ―― はじめに ――

お手玉の会発祥の地で、初めて寄せ玉の共演が呼びかけられ、第16回全国大会が開催された。地域ではそれなりに取り組んできたとはいえ、共通の広場の中での交流と共演は、また新しい感動を呼び起こした。

地域によって受け継がれた寄せ玉は、まさに千変万化しつつも、その技の本流は不変である。この機に当たり、とっとりのお手玉の会の歩みの中で自然に生まれた技、堀り起こした技をまとめておく。

とっとりの【お手玉通信】の中で、またいろいろの場面にとりあげてきたものと重複はするが、歩みとしてとりあげ、整理しておきたい。

### お手玉を掌中に握りしめたときを忘れない

平成4年の春、私は偶然、かわいいお手玉を手にした。永い間忘れていたお手玉へのおもいが開花したときでもあった。そして出かけた孫のゆく保育園で、お手玉で遊んでいた私に、次の偶然がまっていた。

お手玉の全国大会が放映されていた、というニュースであった。

平成4年の秋半ば、NHKに問い合わせて新居浜の存在を知った。大きい驚きと共に私の中に未知の世界へ一歩ふみ出す喜びがひろがった。

### 平成5年 第2回全国大会へ参加

平成5年7月、お手玉グループを結成した。(《とっとりのお手玉の会》の名称は平成7年1月支部としての登録で決定した。)個人会員として、初めて第2回大会へ一人で参加したのであった。

そして乞われるままに、臆面なく私は壇上に立ち、お手玉の技を披露した。帰りの時間の都合もあり、説明なども加えぬままの出演であった。今にして思っても冷汗三斗…。しかし、私の行動をそこまでにした理由があった。それは、今も変わらぬ私のお手玉への原点といえるお手玉の技と、古来の技を知る中で生まれていった新しい技も取り入れ、提案したいと思ったからであった。お手玉先達の地である新居浜で、そんな一人勝手な私の思いはいざしらず暖かい拍手が沸いたときを忘れない。

お手玉の魅力は、伝えられてきた技に感動し、その練習の中で、自然発生する技を取りあげてはまた喜び合い、思いを自由にこの一個のかわいいお手玉へ詰め込んできたことではなかろうか。その思いは今も変わらない。

### うまれた表現あそびは一個から

自由に、一個を持って遊ぶことのできるお手玉の魅力に、表現遊びとして、お手玉が最適なものとしての認識を深めていった私は、平成6年1月に発行した【お手玉通信】へ(そのころお手玉情報と名付けていた)試行錯誤の中で生まれるお手玉指導のあり方などとともに、生まれていった技をとりあえず表にまとめた。

寄せ玉の技は、そのまま振り技へと移行すること、両者の技を使って新しい技が生まれていったことなど、当時は夢中であれこれと遊んでいたことを思い出している。

以来、とっとりのお手玉の会は、「お手玉は一個から」を合言葉として普及活動を始めていた。

しかし、私は正直なところ、一個遊びは難易な技であることも感じていて如何に興味を持って楽しくやっていくかが大切であり、初歩の場合、個々に応じて適切に指導することが大切である。お手玉遊びは、人間本来の豊かな心を育て、一個遊びはそのお手玉遊びの原点であり忘れてはならないことは、あくまで技の主人公はかわいいお手玉であることである。

第16回全国お手玉遊び、日本初「寄せ玉」共演
愛媛新聞社より優雅賞を受賞

### お手玉づくりはお手玉への愛しさを生み出す

平成19年、第7回お手玉遊びの集いを企画した。その中へ〝第一回運針大会〟を織り込んだ。今更いうまでもないが、運針の二文字は危機に瀕してる。子ども達はその中にあって、瞳を輝かせ、お手玉を作りたいという。女の子も男の子も、年齢に関係なく興味を持っている。

そこで、会員の悪戦苦闘が始まるのである。悪戦苦闘に意義を見出しているとはいえ、それは大変な気配りが必要である。これでよいのかと自問自答するうちに名案もでる。子ども達の笑顔があって終わる。そのことを私は面白いと思う。

子ども言葉や作業は、刺激的でもある。はっとする。子どもに教えられる。ともあれ、やはり悪戦苦闘は続くのである。この中で始まった運針大会であった。

運針名人たちの技に驚く子ども。久し振りに針を持つことをためらいつつ、懐かしむおばあちゃん、若いのにきれいに針を運ぶ人に感心する人々。凝縮されたものが、わっと開いた瞬間であった。

●とっとりのお手玉の会が寄せ玉遊びの共演で使った資料です。中に作り方と遊び方が書いてあります。

●布石なんごあそび方が掲載されています。お問い合わせの方は、とっとりのお手玉の会へ。



### とっとりの石なんごを初めて発表

平成21年9月12日、鳥取市のふらっとセンター(鳥取県人権文化会館)のご好意で〝石なんごを語る会〟を開催した。他県からも参加いただき、有意義な取り組みとなった。

そのとき、倉吉市の中田淳子さんに、石なんご遊びが倉吉市にも存在していたことを、実演を交えて体験発表していただいた。このことは、参加者にも深い共感と感動を呼び、昔の遊びの様子をほうふつさせるひとときとなった。

私は、「鳥取市国府町の谷地区公民館で、多くの方が石なんご遊びをしていた」と聞かされたときの嬉しさを、再びかみしめていた。県下にしっかりと石なんごが存在していたのだ。少しずつでも掘り起こそうとしたことへの結果であったと、感謝している。

それにしても、多くのみなさんの協力のおかげである。本当にありがたいとしみじみと思う。

### 「石なんご」から生まれたミニお手玉遊び

鳥取県の三大河川の二つ中部の天神川上流で、私は小石拾いをした。小さい頃遊んだ河原を懐かしみつつ、いま自分のしていることの不思議さえ感じたひとときだった。それは楽しく、想い出に残る一日であったが、現在の子ども達、孫たちは、何と思うことだろう。

小石を拾い、その小石で遊んでみる。予想通り大変にむずかしい。よくもこの小石で子ども達が遊んだものだと、不思議に思う。小石について、あれこれと思いめぐらしているうちに、私は、いまの子ども達に、もう少しやさしく取り組める、小石の代わりとなるミニお手玉を作ってはどうか、そう思った。

そして、〝布石なんご〟と名付けた。仕上げてみると、ミニお手玉は実にかわいい。子どもならずとも、大人も、〝あらっ〟と手に取っている。しかもこのお手玉は、もう使い道のなくなったハギレで出来ているものがほとんど。私はそれを〝再々利用したのよ〟と自慢したい気持ちもある。

30年近くお手玉作りをした私は、最後に残った小布をビンに詰めて眺めていた。それをこのミニお手玉に使った。小布はすべて想い出いっぱいの懐かしい柄なのだ。

### 第16回全国お手玉遊び大会でミニお手玉遊びを披露

平成22年10月16日の第16回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会〜日本初「寄せ玉遊び」の共演〜は、各地域に伝承されてきた拾い技(寄せ技)を持ち寄って開催された、記念すべき大会であった。

私達は、因幡(いなば)・伯耆(ほうき)に伝わる通称「おさら」と呼んでいるもの二つと、青谷町に伝わる「ずずこのうた」を紹介した。そして、石なんごとミニお手玉を、解説しながら披露した。

石は重かったが持参した。また、ミニお手玉も200個余りを、ステージに盛り上げた。すると近くの方から「かわいい」と、どよめきが聞こえた。拾い技は、各県共通といわれている。しかし、『親玉ひとつを持ち、床上の子玉を拾う手遊びである』。ただ、ルールを考えるとき、それぞれのお手玉の素材が異なることで、違ってくるであろうし、遊ぶグループのメンバーによっても考慮されてよいと思う。

このミニのお手玉遊びも、ルールの決め方で面白さも異なってくるし、ここがまた興味のあるところだと考えたい。会員と興じていて、その面白さに、また新しい夢がひとつ増えたように思った。

来る新しい年の拾い技の大会では、ぜひとも、これらの遊びを披露するとともに、鳥取県下へ広めていきたいと願っている。

余談ではあるが、美しい小石は、全国大会の交流会で、貴重なものとして差し上げた方も多くありました。小石は、握り締めると、暖かいのです。

● 全国初の寄せ玉遊びで演技

### ―― おわりに ――

昔の遊びにこだわる理由は、〝昔の技はすばらしい〟のひとこと。先達の技に教えれるということです。そして、いま現在、そこから新しく技が生まれ、遊びが生まれるのです。

そのことを、みなさんと共有したいと願っています。

いつも夢がある未来へ向けて歩みたい。

〒682-0946
とっとりのお手玉の会
連絡先　お手玉の館
鳥取県倉吉市横田（久米中前）
電話　0858-28-0889

## ●お知らせコーナー

### 第11回 とっとりのお手玉遊びの集い開催

■ 日　時 / **平成23年2月5日（土）**
13：00〜16：00
■ 場　所 / 鳥取県倉吉市（上灘公民館）
■ 参加料 / 大人1人・500円
※中学生以下・200円
（お手玉2個と資料進呈）

**時間行程**　12：00・・・開場受付
13：00・・・開会（お手玉名人によるパフォーマンス）
16：00・・・閉会

お問合せ先　TEL・FAX 0858（28）0889
とっとりのお手玉の会（福田）　携帯・090-4698-0993

お手玉のルーツである**石なんご**は伯耆の倉吉にも存在していました。**石なんご**は、お手玉の祖型で、親石を振り上げ、小石を拾い、その数を競います。

- **石** なんご遊びの技の体験
  ■伝承者：印幡／山川豊子さん・伯耆／中田淳個さん
- **ミ** ニお手玉遊び
  ■石なんごからヒントを得たミニお手玉
- **お** みんな　おさら
  ■鳥取、倉吉の伝統の技を紹介（飛び入り参加・大歓迎）
- **振** り技「2個・3個」よるお手玉競技
  ■小学生の部・一般の部（男女問いません）
- **運** 針大会
  ■小ちゃほ、指ぬきの必要な方はお持ちください。
  準備は一切こちらで用意いたします。（用布・針など）

●「手作り」お手玉体験コーナーもあります●
終日取り組んでいます。布・その他用意しています。
●数珠玉のみ実費をいただきます。●

## 高岡武家屋敷で「伝承遊び塾」を開催

### 宮崎県　宮崎お手玉の会

会長　弘田和子

●薩摩高岡藩で武士団が住んでいた武家屋敷

宮崎市から西へ車で30分、高岡町は江戸時代に薩摩高岡藩と呼ばれ武士団が住んでいた所で、今も当時の石垣や武家門などが残っています。

市はその歴史的な町並みに、広い縁側や茶室、苔むした庭のある武家屋敷を移築し「まちづくり」を進めています。宮崎お手玉の会では、この武家屋敷で「伝承遊び塾」を10月24日（日）と11月14日（日）の2回にわたり開催しました。青竹を組み野の花を生けた武家屋敷では、お手玉遊びをはじめ、折り紙、あやとり、おはじき、けんだま等の、伝承遊びを楽しんだほか、武士の散歩道ウオーキングや野点もあり、多くの参加者で一日中賑わいました。

お手玉の会は、様々な形のお手玉の展示や、お手玉作り、寄せ玉、ゲーム、技に挑戦を行いました。昔はお手玉が3つも4つも出来たのにと参加したお年寄りが、なつかしそうに遊んでいました。

このイベントは、宮崎市レクレーション協会、折り紙研究会、まちづくり委員会、お茶の会などと協力して実施しましたが、会員相互の交流が深まり、ともに有意義な研修にもなったようです。

静かなたたずまいの武家屋敷に、ゆったりと時が流れ、笑い声の溢れる催しでした。

新春お手玉遊びの会は、平成23年1月23日（日）の予定で開催します。

●移築された武家屋敷の中で

●さまざまなお手玉の展示

## 沖縄「加那よ」での活動

### 沖縄県　沖縄いしなぐの会

会長　宮平幸子

**温もり・楽しさ・伝わる**

今年は新会員も増え、また一段と楽しい会になりました。月1回の研修会ですが月毎に担当班を決めて研修しています。

各月の係が自分達のカラーで研修を進めるので、変化に富んで楽しい、との新会員の声です。そこで得た技を、各人が所属する地域や施設で役立てて活動しています。

たとえば、子育てサロン、保育園、幼稚園、小学校、ミニデイサービス、老人会、児童館祭り、地域の健康・福祉フェアー、島くとうばの会、わらべうたフェスタへの協力（沖縄お手玉の会主催）等です。

「お手玉百回できたよ」「また、いつ来てくれるの？」との子どもたちやお年寄りの声に、「温もり・楽しさ」が確実に伝わっていることを実感しています。

●最初は二人一組で向かい合っての投げ渡しから

●幼稚園でのお手玉指導
お手玉を一個頭に載せて

●新会員のみなさんと輪になって子どもたちと一緒にお手玉渡しの練習です。

## お手玉で多くの出会いを

### うるま市　沖縄いしなぐの会

金城千里

沖縄の寄せ玉は、「いしなぐ」といいます。チョウセンサザエの蓋を使って遊ぶことから「マンナー」ともいいます。

みなさんに、「珍しい遊び方ですね」と興味をもっていただき、「古典賞」までいただき、うれしく、感謝しています。

好きなお手玉をしながら、多くの出会いをいただき、とても楽しく参加できました。各県のいろんな、おもしろい遊びが満載でした。体験したことを、子どもたちに、伝承していきたいと思っています。

●交流会で沖縄民踊「加那よ」を踊る金城さん。

沖縄ではサザエのふたを使ってお手玉遊びをしていました。

●金城さんからの絵手紙です。



## 昔を思い出しながら楽しく

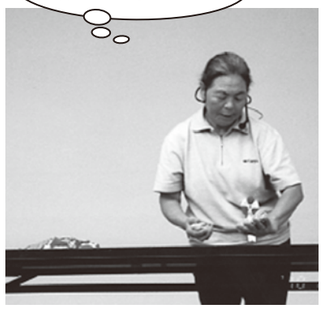
### 福島県　福島市　斎藤朋子

●開会式でのご紹介の一場面

寄せ玉遊びの共演は、一番目の演技者で、落ち着かない気持ちでした。でも、やり始めると、昔を思い出していました。姉たちの上手なお手玉さばきを、真剣に、集中して見守り、早くああなりたいと思いながら、自分の番をじっと待っていたころを…。

ひざを悪くしていますので、寄せ玉の演技は立ってやらせてもらいました。胸おどる、素晴らしい感動の大会でした。

遠路より参加して、お手玉の会の皆さんとご一緒できたことを大切に、これからも少しづつ「お手玉遊び」の伝承文化を守りたいと願っています。




●「寄せ玉遊び」の共演で一番目の演技

## 生きる喜びをいただいた

### 島根県

松江市
高木文子

新居浜大会は、すごく温かく、気持ちがほっと落ち着き、さすがお手玉遊びの心の故郷です。若者の様に胸をおどらせながら参加いたしました。

全国の寄せ玉遊びが、一堂に会しての発表など、考えられませんでしたが、ご関係のみなさんの懸命のご努力で、よろこびと笑顔のうちに、スムースに進行し、感心と感動でいっぱいでした。

これが、お手玉の心なのでしょうか。たくさんの「心のお土産」を、持ち帰ることができました。お手玉は生きている。それぞれにあったように、喜びを与えてくれる宝物であると思います。

今大会で、生きる喜びと力をたくさん頂戴しました。これからも、元気を出して、毎日を大切に生きて行くという、エネルギーをいただきました。ほんとうにありがとうございました。

## 久し振りに原点にかえった

### 福岡県 大野城市

福岡お手玉の会
原　妙子

「寄せ玉遊びの共演」は、素晴らしい企画でした。久し振りに、原点に戻った気持ちになりました。

これから、福岡でも、ゆるやかな、楽しい、なつかしい『お手玉遊び』を、伝えていきたいと思っています。

「太鼓まつり」は、まさに男の祭りでした。初めて見ました！

●福岡お手玉の会では手作りで会報紙【ふくたまだより】を作っています。

●会報紙【ふくたまだより】

●このたびのお手玉大会は新居浜「太鼓祭り」の日程に合わせた開催だったので、桟敷席でゆっくと見物できました。迫力ある男まつりでした。

## 市内観光も取り入れた大会

また、大会翌日の10月17日(日)には、市内観光として、新居浜市が、「心」のお手玉とともに〝世界に誇る文化〟の「礎」の別子銅山「近代化産業遺産・東洋のマチュピチュ」の探訪と、「誇」の「太鼓祭り・一宮（いっく）の杜ミュージアムの太鼓寄せ」の観覧を行いました。

県外か参加してくださった方々のうち60人の方が、市内観光を楽しんでいただきました。どちらも、ご満足いただき、みなさんには、ご好評をいただきました。

●日本一の銅の採掘を誇った別子銅山

●四国・三大祭りの一つ「新居浜太鼓祭り」

●新居浜観光協会「パンフレット」より

# お知らせ

## 「複雑怪奇な立体折り紙」

### アルミ箔を使い独自の技法

医学博士　伊藤雅治
愛媛労災病院名誉院長
東城看護専門学校校長
日本のお手玉の会
四国ブロック長
新居浜支部長

新居浜支部長の伊藤雅治さんは、自ら考案したアルミ箔を使った折り紙士。アルミ箔を手に持ったまま、独自の技法で動物や昆虫を瞬く間に、立体に折り上げます。

全国大会の交流会でその技を披露して好評を博し、参加された各支部に動物の折り紙を送る約束をしました。いま、頑張って制作していただいてます。

もう少しでお届けできます。楽しみにお待ちください。

伊藤さんは、愛媛労災病院名誉院長、東城看護学校校長を務められている医学博士です。

うさぎ・カメ・トンボ・あぶらぜみ・カマキリなど

## 新聞各社次々と取材発表

愛媛新聞・生涯教育新聞に取り扱われる

（財）えひめ地域政策研究センター発行の
「舞たうん」平成23年新年号にお手玉の会の活動の歴史と現状を掲載

千葉県・生涯教育新聞
平成22年11月6日号

愛媛新聞 平成22年10月17日号

## ハッピートーク　心をつなぎ、笑顔をつなぐ

### ―温もりあふれるお手玉遊び―

### 雑誌「HAPPY ONE」に掲載

会員の方が掲載されています。

プラスワン出版社（岡山市）発行の雑誌「HAPPY　ONE」（ハッピーワン）平成22年11月号（A5版74ページ）に、日本のお手玉の会に関係する人たちのことが、12ページにわたって紹介されている。

記事のタイトルは、ハッピートーク「心をつなぎ、笑顔をつなぐ―温もりあふれるお手玉遊び―」で、日本のお手玉の会直前会長の藤田石根さん（新居浜市）、同師範代の今村シメ子さん（同）、同会員の森下恵子さん（広島市）、同会員の武本京子さん（新居浜市）とお孫さんの水沼なみちゃん（同）、そして、ちりめん細工作家の山口信子さん（日本のお手玉の会元顧問・桜井市）らが登場している。

武本さんとなみちゃんは、隔世伝承のお手玉遊びを、そのまま実践している日常の姿を語っている。今村さんは、師範代として、小学校や幼稚園・グループホームを訪ね、お手玉の指導に活躍している様子を話している。

藤田さんは、新居浜市で、お手玉の活動を始めたいきさつから、その魅力、活動の内容、そしてこれからの取り組みなどについて話している。森下さんは、新居浜市でお手玉の大会に出会い、その素朴さに魅せられ、お手玉遊びの普及に取り組んだいきさつを語っている。

山口さんは、「布細工のルーツはお手玉にある」と、古い端切れを使って、お手玉や素朴な人形や装飾品を作る楽しさを話している。

編集子は、水沼なみちゃんの無邪気にお手玉で遊ぶ、純粋無垢な姿を写真で紹介し、次のように記事を結んでいる。

「老若男女を問わず、場所や言葉を問わず、子どもたちの真っ白な心をとらえて離さない『お手玉』の魅力を、彼女の横顔が、鮮やかに物語っている。あんたがたどこさ♪ひごさ♪ひごどこさ♪…優しいわらべ唄の声音（こわね）は、世代を越え、国境を越え、人々の笑顔をつなぎ、心をつなぎ、優しい心を育んでいくことでしょう。

いつの時代も、つゆぞ変わることなく」

● お問い合わせ先
■発行所：プラスワン出版社
岡山県岡山市東区神崎町五二番地
TEL（086）946-1623
平成22年発行
（第27巻・通巻315号）



# ● 本部と新居浜支部ではこんな活動をいたしました。

## 愛媛県　新居浜支部　今村シメ子

## 児童・幼児・乳児にお手玉指導

新居浜支部は、平成22年度の事業として新居浜市教育委員会の要請で、放課後児童クラブを対象としたお手玉指導を行った。ことし対象としたのは、5小学校のクラブで、夏休みを中心に、延べ16回実施した。市内を3つの地区に分けて、それぞれの地区の会員が指導を分担した。

各クラブとも、たいへん好評で、児童たちは、真剣に、しかも笑顔で参加し、3個ゆりができる児童も増え、「次は、いつ来てくれるの？」と、会員にたずねるようになってきた。

また、神郷（こうざと）小学校では、今年もお手玉クラブが設けられ、地区の会員が、毎月、指導に当たった。

そのほか、近隣の市からの要請もあって、会員はスケジュールの調整に苦慮しながら、乳児園、保育園、児童センターなどでのお手玉指導に出かけている。

## 保育士を対象とした講習会も

愛媛県保育協議会の主催で、平成22年度県初級保育士研修会が、5月19日に、松山市の県総合福祉会館で行われ、県内の新任保育士200人が参加した。

日本のお手玉の会では、お手玉の講義と実技指導を担当し、新居浜支部から今村シメ子師範代をはじめ3人の会員（松尾美代子、武本京子、近田敞子）が実技指導を行い、武田信之顧問が講義を担当した。

新任保育士さんたちは、体育着に着替えて熱心に受講し、音楽に合わせて実技を学び、最後にミニお手玉大会を行い、笑顔でにぎやかに取り組んだ。会場では、世界と日本のお手玉の展示と、お手玉の歴史を紹介したパネルも紹介した。

また、2月27日には、四国中央市の主催で同市の保育士150人を対象に、お手玉遊びの講義と実技の研修会が行われ、新居浜支部が指導に当たった。

受講した保育士さんたちは、終始笑顔で、寒さを感じさせない、暖かい雰囲気で受講した。

●四国中央市主催の保育士さんを対象としたお手玉研修会

## 留学生がお手玉で日本を学ぶ

今治明徳短期大学で、平成22年6月8日と15日の両日、同校の中国人留学生30人を対象に、「日本を学ぶ」の授業で、お手玉の指導が行われました。日本のお手玉の会から、今村師範代ら4人が参加して、指導に当たりました。

また、ライオンズクラブ国際協会主催の外国の青年を招いてのYEサマーキャンプが7月22日に新居浜市マリンパークで行われ、20人の参加者と一緒にお手玉遊びを楽しみました。

## ロスの東繁春さんが講演会

### 演題「左ハンドルの日本文化」

新居浜支部主催

新居浜支部主催で、6月25日、国際交流講演会を市内で開催し、会員や市民が参加しました。講師は、ロサンゼルス在住で、日本文化を紹介する月刊英字新聞「カルチュラル・ニュース」社長の東繁春さん。東さんは、新居浜支部顧問で、龍谷大学での講演のため帰国した機会に、新居浜市に立ち寄り、講演会を開くことになりました。

開会にあたり、新居浜市教育長の阿部義澄（新居浜支部副支部長）さんが、「カルチュラル・ニュース」は、日本の中学校の社会科の教科書でも紹介されている…」と、講師を紹介しました。

演題は、「左ハンドルの日本文化」で、東さんは、「世界スタンダードになりつつある日本文化」について、写真で紹介しながら、次のように話しました。

「いまアメリカで『トヨタ』は、クルマの代名詞。また、日本で忘れられつつある盆栽、名石、着物、空手、剣道、太鼓などが、アメリカに定着しつつある」。

● 月刊英字新聞
「カルチュラル・ニュース」
社長　東　繁春さん

# 社会人落語会 日本一決定戦で名人に

■桂三枝さんら審査員が「満場一致」で推薦

## 見事・日本一に輝く

2010年12月3日 土曜日

よっ日本一

新居浜の枝広篤昌さん

落語名人はお医者さん

桂三枝さんら「満場一致で1位」

25日午後・感謝の気持ち込め寄席開く

●2010年12月3日付けの朝日新聞に掲載される。（朝日新聞記事より抜粋）

### 新居浜支部の枝廣顧問が社会人落語の二代目名人

## 「お婆ちゃんのお手玉」の演目で

新居浜支部顧問の枝廣篤昌さんが、10月24日、大阪府池田市で開催された第２回社会人落語日本一決定戦で、桂三枝さんら審査員による審査の結果、満場一致で名人に選ばれました。

枝廣さんは、新居浜市に住む精神科のお医者さんで、豊岡台病院（四国中央市）の院長を務めていますが、「芸乃虎や志（げいのこやし）」の高座名を持っています。今回の決定戦では、「お婆ちゃんのお手玉」の演目で出場しました。

受験でストレスを感じたり、ダイエットを気にしたりして悩む孫たちを、お婆ちゃんがお手玉を教えて元気にするという創作落語を、お手玉歌を歌いながら、テンポよくお手玉をゆりながら、演じられたそうです。

その話の内容は、10月16日のお手玉遊び大会後の交流会で、お手玉落語を演じた際、みなさんの反応がよかったので、それを演じたと、枝廣さんは話していました。

枝廣さんの日本一を、祝福するとともに、これからも、お手玉落語を演じていただき、お手玉の輪、笑顔の輪を広げていただけるよう応援していきましょう。

## 交流会の企画として お手玉の図書のサイン会

中原和彦・大西伝一郎両顧問

全国大会の交流会に、日本のお手玉の会の中原和彦顧問と新居浜支部の大西伝一郎顧問が出席しておられたので、両顧問の著書へのサイン会が行われました。

中原顧問の著書「お手玉が癒す心とからだ」（海鳥社・２刷目）と、大西顧問の著書、写真絵本「お手玉」（文溪堂・20刷目）が、交流会場で販売されました。

購入者の希望で、会場内にサインコーナーが設けられ、両顧問と会話を交わしながら、著名をしてもらっていた。

この日、大会会場では、日本のお手玉の会元顧問の田中邦子さんの著書、「歌とリズムで伝承遊び～お手玉・まりつき・ゴムとび」（一声社）も販売されました。

医学博士 中原顧問の著書

児童文学作家 大西顧問の著書

## 疲れた脳を「お手玉」で治す

竹内薫・茂木健一郎の共著

「脳のからくり」で紹介

理学博士の竹内薫・茂木健一郎両氏の共著「脳のからくり」（新潮文庫）がこのほど出版された。その中で、〝疲れた脳を活性化させるには？〟と問いかけ、「それは、なんと『お手玉』なのです。」と、次のように紹介している。

＊　＊　＊　＊

疲れた脳を簡単に治す方法――それは、なんと「お手玉」なのです。

ゲームやパソコンで疲れたとき、試しにお手玉をやってみてください（実は私もやっているのですが）。驚くべきことに、最初は手がこんがらがって、うまくお手玉ができないのです。しかし、数分も続けていると、ちゃんとお手玉が廻るようになります。そして、なんとなく頭がスッキリした気分になるのです。

お手玉をやるには、それなりにタイミングを計算して手を動かさないといけないので、β波が復活するのだそうです。嘘（うそ）だと思われますか？

先日、テレビを見ていたら、数学者で大道芸人のピーター・フランクルさんが、「数学をやりすぎて頭が疲れてきたときはお手玉をやると回復する」といっていました。

どうやら、脳の使い方の達人は、経験的にお手玉が効くことをご存知だったようです。

ゲーム脳の是非は別として、勉強疲れやコンピューター疲れを癒（いや）すのにお手玉が効くことは、経験的には実感できます。

お手玉は、誰でも簡単にできます。

とりあえず、お手玉で頭の疲れを癒してみてはいかがでしょう？悪い副作用もないはずですから。

（竹内薫・茂木健一郎共著「脳のからくり」から）

【発行・編集】
日本のお手玉の会
〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号 銅夢（ドーム）にいはま内
TEL/0897-32-0302・FAX/0897-32-0311
E-mail:tamachan@otedama.shikoku.ne.jp
ホームページ：http://www.shikoku.ne.jp/otedama/